



福島中だより

2月号

H28.2.1発行
文責：校長

2月になり、早いもので、3学期も中盤に差し掛かろうとしています。3年生はいよいよ受験モードの真ただ中です。すでに私立高校入試は終わり結果が気になるところです。また、2月は県立高校の推薦入試や都城高専の一般入試等が行われるとともに、3月の県立高校一般入試に向けて、願書提出等の大切な手続きが進められていきます。この時期は健康管理に十分気をつける必要があります。本校でもすでにインフルエンザ罹患者が数名報告されています。例年この時期に罹患者が増える傾向にあります。今年は新型ノロウイルスの流行も心配されていますので、うがい・手洗いをしっかり行い、一人一人が予防を心がけましょう。受験を控えている3年生はもちろんですが、1・2年生も協力し、福島中でインフルエンザ等を流行させない努力をすることが求められます。各家庭の方でも、ご協力お願いいたします。

◆◆◆ 熱していなければ暖められない ◆◆◆

以前に、浜尾実さん（教育評論家・元東宮侍従）の、子育てに関する文章を紹介しましたが、今回は、その第2弾として次の文章を紹介します。私自身の子育てを振り返って反省させられることしきりですが、皆さんのご家庭ではどうでしょうか？

寝ていて、人を起こすな

お母さんが自分の子どもに「このようになってもらいたい」と願うのであれば、親の側の努力も必要になります。

例えば、「読書の習慣をつけてもらいたい」、「テレビばかり見ないでもらいたい」と思ったら、必ず一緒に読む。テレビは親も見ない、ということです。「根性をもってもらいたい」と思ったら、私たち大人も、三日坊主でなく、意志を強くして、一回決めたことはいつまでも続ける、ということです。（中略）

日記を書き始めたら、一年間書き終えるまでつけるというように、意志を強く持つことが大切です。それからまた、時間を守ってほしいと思うなら、親も時間を守る、親切な子どもになってもらいたいと思うなら、私たちも隣の奥さんや、家族の者に親切にしてあげることしなければなりません。お母さんが親切にしてあげのを見続ければ、子どもも親切な心の優しい子どもになるでしょう。

日本には昔から「寝ていて、人を起こすな」という言葉があります。つまり、子どもを起こすならば、人を起こすならば、まず、自分が起きてから起こさない、ということです。教える者が、まず立ち上がる。まず実行して、そして、教えましょう、ということです。（中略）

それから、「大人が熱心なものには、子どもも熱心だ」ということがあります。良くも悪くも、大人が非常に関心を持っているものには、子どもも非常に関心を持ちます。

例えば、毎日、新聞を開けたとたんに、株が上がったとか下がったとかいう話ばかりしていた（「子どものほめ方・叱り方 伸びる子が育つ44のヒント 浜尾実 著」より抜粋）

この文章は、浜尾さんが、主にお母さん相手にお話しになられたものをまとめたものだと思われるのですが、「お父さん」に置き換えて読むこともできますし、もちろん私たち教師にも当てはまることだと思います。さらに、もっと広げて考えるなら、中学生にとってもこれからの自分を考える上で参考となるのではないのでしょうか？

現在の2年生は、4月には最上級生になります。1年生は2年生に進級し、新しく入学する新1年生から、「先輩」と呼ばれるようになります。学校生活の中で、行事の中で、部活動の中で、自分が模範を示し、下級生を導いていかなければならない場面が、間違いなく増えていきます。そのとき、自分の姿はどうあればよいのか。

新しい学年に向けて、残された2月と3月。自分を見つめなおし、新しい一歩を踏み出す準備をしましょう。

ら、その子どもは、金融ということに非常に興味を持つでしょう。あるいは、夕食の時、食卓を囲みながら、お父さんから、会社の同僚の話とか上司の話とかを、お母さんからは、お隣の奥さんの悪口ばかり聞かされている子どもは、やがて人事ということに興味を持つようになるのではないのでしょうか。お父さんがプロ野球が好きで、毎日テレビで観ていると、子どもは黙っていても野球が好きになるでしょう。

ですから、良い悪いは別にして、大人が熱心なものは、たとえ黙っていても子どもに伝わります。「熱していなければ、人を暖めることはできない」という言葉があります。同じように、私たちがまず燃える、熱していれば、その燃えていることは子どもに伝わるのです。それは、実践とか、実行とかを、まず私たちがやるということなのです。

お父さんがお母さんが、マンガや週刊誌しか読んでいない子どもは、世界文学全集を読もうなどとは思わないでしょう。「意地悪をすることは、人間として恥ずかしいことですよ」とお母さんが子どもに言っているなら、お母さんも弱いお父さんをいじめてはいけません。

子どもは黙っていても、すばらしいつぶらな目で見つめています。お母さんがたとえ美人でないからといって、そんなことで子どもは肩身が狭いとは思ってはいけません。人間として、いいお母さんかどうか、ということ、子どもは見ているのです。

ですから、私たち親も、もう学校を卒業して社会に入ったから終わりというのではなく、子どもと一緒に一生涯、勉強し、修養につとめたいものです。私たちは、子どもがいることによって、私たち自身も育っていくのだらうと思います。

2月の主な行事

- | | | |
|--------|-------|-------------|
| 4日 | (木) | 県立高校推薦入試 |
| 5日 | (金) | 職場見学(1年) |
| 11日 | (木) | ●建国記念の日 |
| 15日 | (月) | 第2回弁当の日 |
| 16日 | (火) | 参観日・立志式(2年) |
| 18・19日 | (木・金) | 学年末テスト |
| 21日 | (日) | 都城高専一般入試 |